日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

100 years IUBS

Unifying biology through diversity

国際生物科学連合
International Union of Biological Sciences (IUBS) https://iubs.org/

概要

2024年11月
日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUBS分科会

IUBSとは

世界の生物学を総合的に方向づける学術団体

設立

1919 国際生物命名委員会として設立
1925 国際学術会議（ISC）に加盟
1950 日本学術会議が加盟

目的

生物学の世界的代弁者として，
地球規模の生物学的課題に関する
国際的な研究や教育を
総合的に方向づけ，支援，啓蒙する

メンバー

国会員 Ordinary Members　30

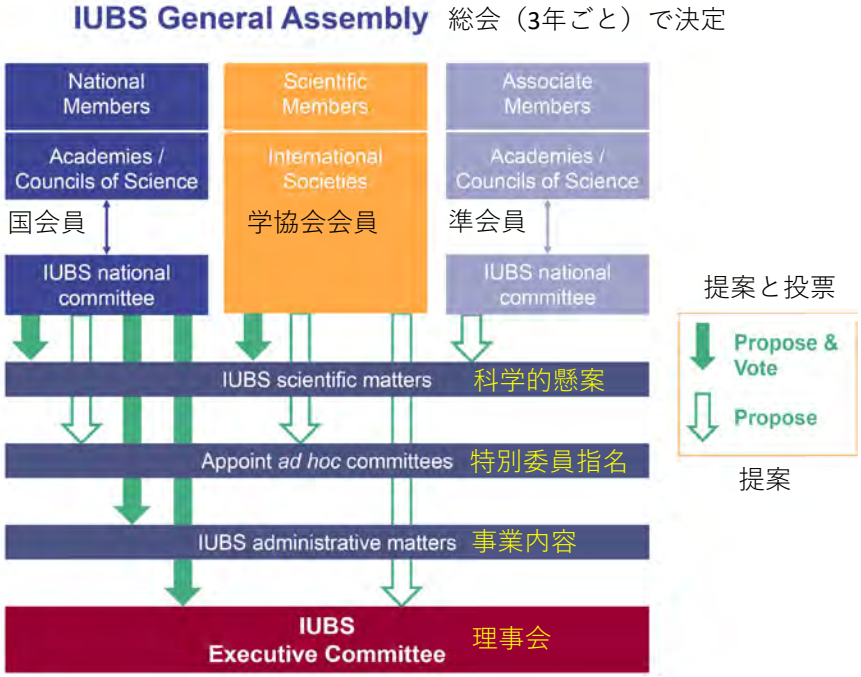
日本学術会議 SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

学協会会員 Scientific Members　85
準会員 Associate Members　1
(資金拠出ができない国会員, モンゴル)

資金

国別分担金
（UNESCOとISCが定める
各国GDPを基準にした額）

ガバナンス



IUBSの事業と社会への貢献

ビジョン
世界を益する生物学の推進

ミッション
生物学を代表して意見を発出する

主な事業分野

定常的な事業

生物学からの国際的イニシアチブ発出
- 多様性を見据えた生物学の融合　Unifying Biology through Diversity
- 生物学教育とアウトリーチ International Education and Outreach Projects

国際的な政策枠組み・政府間ネットワークへの参画や協力
- ISC (国際学術会議)
- IUCN (国際自然保護連合)
- CBD COP (生物多様性条約)
- SCAR (南極研究科学委員会)
- WHO（世界保健機関），FAO（国際連合食糧農業機関）
- GBIF(世界規模生物多様性情報)

期間事業

科学プログラム実施及び科学集会支援
（2022-24の例）
- 教育生態学
- 草原化問題
- 変化する地球と生物学
- 第38国際化学生態会議
- 第10双翅目会議

主な貢献例

国際機関設立と活動支援
- ICZN（国際動物命名規約）等，生物の命名規約を管理する国際団体
- TROP ICSU(学際的研究による気候変動理解推進のための教育手法)

国際機関への参画と協力
- 科学におけるジェンダー平等性 (Gender Equality in Science)
- Future Earth
- UNESCO IYBSSD2022 (持続可能な発展のための基礎科学年)

政府への科学的助言
- 2013-15のDAB（災害と生物多様性）を契機として学術会議が2016年に提言「国立自然史博物館の必要性」を発出

日本学術会議・日本の科学者による IUBSへの貢献

財政的貢献

- 分担金の拠出（2024年度，日本は最大の資金拠出国（19%））
  （一時脱退していたアメリカが2020年から再加入した）

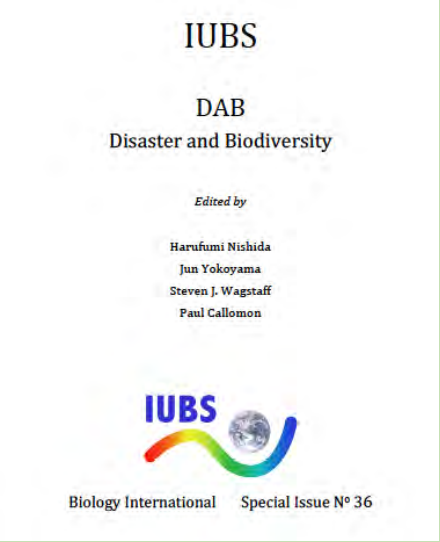
組織運営への人的貢献

- 2016-19　武田洋幸会員（東京大学教授）：会長
- 2020-現在　村上哲明連携会員（東京都立大学教授）：理事
- 2023.3　西田治文連携会員（中央大学教授,国代表）：34回東京総会実行委員長

学術・教育的貢献

例
国際シンポジウム
「災害と生物多様性」DABの
日本開催　2014年9月

3.11地震災害を契機に，災害が生物多様性及び自然系博物館/標本に及ぼす影響と問題点を議論。成果は2017年にIUBSの特別報告として出版。


IUBS

DAB
Disaster and Biodiversity

Edited by

Harufumi Nishida
Jun Yokoyama
Steven J. Wagstaff
Paul Callomon

IUBS

Biology International　Special Issue N° 36

例
IUBS第34回総会の開催
2023年3月

中央大学後楽園キャンパスで日本初の総会を開催。通常の総会議事に加え、生物・農学系国内学会の後援を得て学術シンポジウムや公開講演会を開催。

将来の展望

事業の実施を通じた科学調査・研究の支援等

◆ 定常的な事業の実施を通じた科学調査・研究の実施・支援

◆ 基幹事業の実施を通じた地球規模課題への生物学からの対応

- 3年毎の総会で優先課題と科学集会の助成項目を採択し実施する

生物学的優先課題

グローバルな持続可能性	生物多様性の保全と回復	感染症の脅威排除	生物学的社会倫理の構築と広報	次世代教育及び各種格差の解消

組織としての課題への取組

◆ 組織活動の強化：優先課題への取組

- 現在第34回総会（東京）で採択した3カ年計画 2022-2025による課題を実施中
- 今後の生態的持続可能性を強化するために農学系学会との協力を推進

◆ 財政基盤の確保：資金調達方法（分担金算出方法）の見直し

- 財政基盤である国別分担金の額はUNESCOとISCの基準設定に準拠
- 特に経済先進国の加盟数増加に引き続き努力
- IUBSが支援する個々の活動においては独自の資金獲得努力を継続して追求